

人とのつながりは嬉しさを倍増します

陶板浴に来て下さっている栗田さんのご紹介で、東京で温熱治療をしている「サーモセルクリニック」から医師や看護師さんなど10数名陶板浴を体験に来て下さいました。さすが医療関係者です。陶板浴を利用する前と利用後に血液検査と尿検査をしました。陶板浴利用後「いかがでしたか」とお尋ねしたところ「想像以上でした」と言って下さいました。後日、血液検査結果を送って下さったのです。メールで「全身温熱による血液の変化として理想的な結果かと思えます」との言葉にとっても嬉しくなりました。何が嬉しいかといえば陶板浴に通われている方々の免疫力が益々上がるのではないかと思うのです。あるお客様にこのことを話したら「このデータを大きくしてみんなの見える所に張っておいて、それだけでもみんな免疫が上がると思うから」と言って下さいました。お客様が提案して下さいる事に本当に嬉しくなります。陶板浴は常にお客様に育てて頂いているのです。こんなに幸せな環境に居られる私たちはお客様に何か返さなければと思ってしまいます。安保徹先生(免疫学者)にも早速データを送っちゃいました。

この「陶板浴だより」の発行もある膠原病の方が、10年薬を飲んでも良くなり、いよいよ入院という時に陶板浴を知り通うようになり、1年後には薬が全てなくなり元気になったのです。その方が「私、薬を飲まなくてもこんなに元気になって、同じ病気で苦しんでいる人に教えてあげたい」とおっしゃったのです。私たちの役割は陶板浴で元気になった人の体験を伝える事でもあるのだ、と気づかされ、「おたより」を発行するようになったのです。お客様に気づかされ、教えて頂いています。

私が今こうしている時でさえ、熊本での震災が続いています。一度や二度の恐怖ならともかくこんなに続く地震に精神的に疲れてしまうのではないかと心が痛みます。地震で助かってもその後の環境で体調を崩されることのないようにと願うばかりです。こんな時だから特に思うのですが、人生困難な時や辛いとき、一人より二人、二人より三人と、つながっている人が多ければ多いほど生きやすくなるのではないかと思うのです。病気になったときもそうです。家族だけではなく周りに気軽に話せる人や場所があれば辛いことでも乗り越えられる気がします。竹屋陶板浴はそんな場所でありたいと常に思っています。身体や心が大変な人ほど大切にされる場所。それはスタッフだけではなく、お客様と一緒に創り上げていけると実感しています。たんぼぼの会(癌交流会)でガン友になっている方々を見ると、うらやましいなと思う時さえあります。私たちは自然の力にはかないませんが、人間の持つ、人とのつながりや信頼感、思いやりなど、まだまだ発揮する余裕があるような気がします。今後どんなことが起こるか分かりませんが、私たちは人間のつながりを大切にしたいと考えています。どうぞお力をお貸し下さい。